

第3回 禁煙推進学術ネットワーク学術会議

【COVID-19と禁煙啓発とリハビリテーション】

ハイブリッド開催

会長 三浦 伸一郎 福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授

会頭 朔 啓二郎 福岡大学 学長

日時 2021年 11月27日(土) 13:00-16:15

会場 アクロス福岡 福岡市中央区天神1-1-1

アクロス福岡よりWEB配信致します。

主催：一般社団法人禁煙推進学術ネットワーク、福岡大学医学部、NPO法人臨床応用科学
後援：日本心臓リハビリテーション学会

会長挨拶



三浦 伸一郎

第3回禁煙推進学術ネットワーク学術会議 会長
福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授

この度、第3回禁煙推進学術ネットワーク学術会議を開催させていただくこととなりました。世界の喫煙率は、低下していますが、人口増加に伴い喫煙者数は増加してきています。また、喫煙は、男性の死亡危険因子の第一位でもあり、本学術会議の開催の意義はますます高まっています。

今回は、第一部として、「日本のCOVID-19対応に関して」、第二部では、「新型タバコ論争、解決に向かって」と題して、各領域のご専門の先生方よりご講演をいただきます。アイスブレイクは、「オリンピック・パラリンピック出場者のコメント」、および「包括的心臓リハビリテーションと禁煙」についてです。

心臓リハビリテーションは、患者さんへの運動療法のみでなく、禁煙・食事療法など包括的に多職種の実業スタッフにより患者さんを管理することが目的です。したがって、患者さんへの禁煙推進も医師のみでなく、多職種により実施することが効果的です。本学術会議が禁煙推進、健康増進の一助となれば幸いです。多数の方のご参加をお待ちしております。

会頭挨拶



朔 啓二郎

第3回禁煙推進学術ネットワーク学術会議 会頭
福岡大学 学長

皆様いかがお過ごしでしょうか？新型コロナウイルス感染症もある程度収束してまいりました。福岡大学での対面授業は10月11日より再開され、順調に経過しています。今後も繰り返すであろう新型コロナウイルス感染症に対して、今までの経験を糧として様々な対策を打ち立て、さらに何事もなかったように乗り切っていきましょう。

コロナは私たちの生活に大きな変化をもたらしました。これまで正しいと思っていたことが、案外そうでなかったり、本当は必要がなかった事柄も明らかになってきました。コロナ感染症の第6波来襲予測、また、3回目のワクチン接種が推奨される状況です。コロナのために延期になった本会も、様々な対策とともに学術会議開催にご尽力いただいたスタッフの皆さまに深謝いたします。じっと耐えるのではなく、各種対応を実行することが重要と考えます。そのためのサイエンスです。喫煙もワクチン接種も、個人の自由の主張がありますが、完全禁煙に向かうことが、コロナ予防・重症化予防に繋がるようです。

さて、本学術会議ですが、第1回目は福岡市で開催、今回第3回も福岡市での開催で、福岡大学心臓・血管内科学の三浦教授が主宰されます。本来、ネットや代表者のみの会議体でした。会員相互の親睦を目的にして開催するのが本学術会議の主旨でしたので、皆様の交流の機会となれば幸いです。多数の方のご参加（webで結構です）をお待ちしています。

第3回 禁煙推進学術ネットワーク学術会議

ハイブリッド開催（状況によってはWEB開催のみとなる場合があります）

会期 令和3年11月27日(土) 13:00~16:15

参加申込は☞より

場所 福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡よりWEB配信



会長：三浦 伸一郎 福岡大学医学部心臓・血管内科学 主任教授
会頭：朔 啓二郎 福岡大学 学長

参加費：医師 3,000円 メディカルスタッフ(医師除く) 1,000円

※日本心臓リハビリテーション指導士資格更新3単位取得認定講演会

※単位取得に関する注意事項

WEB参加にて、日本心臓リハビリテーション指導士資格更新単位申請をご希望される方は、必ず11月18日(木)までに事前参加登録フォームにて申込を完了させて下さい。また、当日は、最初から最後までご視聴いただく必要があります。主催側システムにて当日のご視聴状況を確認させていただきます。また、途中には「キーワード」を画面上に掲示させていただきます。終了直前にZoomのチャットにてURL(入力フォーム)を送信しますので、必ず翌日までにご回答下さい。

シンポジウム
テーマ

COVID-19と禁煙啓発とリハビリテーション

オープニングリマーク 日本内科学会理事長 矢富 裕 先生(東京大学) (13:00~13:05)



第1部 日本のCOVID-19対応に関して (13:05~14:15)

座長： 埴岡 隆 先生、天野 哲也 先生、長尾 徹 先生

- 1) 禁煙治療標準手順書の解説 日本動脈硬化学会 飯田 真美 先生(岐阜県総合医療センター)
- 2) COVID-19と禁煙 日本呼吸器学会 田坂 定智 先生(弘前大学)
- 3) COVID-19と口腔疾患 日本歯周病学会 稲垣 幸司 先生(愛知学院大学)
- 4) COVID-19を世界規模で考える 禁煙推進学術ネットワーク 藤原 久義 先生(兵庫県立尼崎総合医療センター)

楽しくアイスブレイク

座長：朔 啓二郎 先生 (14:20~14:35)

オリンピック・パラリンピック出場者のコメント

座長：三浦 伸一郎 先生 (14:40~15:10)

「包括的心臓リハビリテーションと禁煙」

日本心臓リハビリテーション学会 安 隆 則 先生(独協医科大学日光医療センター)

禁煙推進学術ネットワーク加盟団体



第2部 新型タバコ論争、解決に向かって (15:15~16:15)

座長：福田 実 先生、田淵 貴大 先生

- 1) 新型タバコの蔓延状況と危険性 禁煙推進学術ネットワーク 大和 浩 先生(産業医科大学)
- 2) 喫煙・COVID-19：ネット調査からの提言 日本疫学会 片野田 耕太 先生(国立がん研究センター)
- 3) スポーツと禁煙 上原 吉就 先生(福岡大学)

主催：一般社団法人禁煙推進学術ネットワーク、福岡大学医学部、NPO法人臨床応用科学

後援：日本心臓リハビリテーション学会

1) 禁煙治療標準手順書の解説

日本動脈硬化学会

飯田 真美 先生（岐阜県総合医療センター）



2006年に禁煙治療が保険適応となってから約15年が経ちました。その間に数回の診療報酬改定があり、ニコチンパッチやバレニクリンの薬価収載、ニコチン依存症管理料を算定する禁煙治療を行っている患者が治療途中で入院となり引き続き禁煙治療を実施した場合の治療継続など、禁煙治療のための標準手順書はその都度適宜修正されています。2016年に患者要件のブリンクマン指数の規定の改訂に伴って若年者への保険適応の拡大が可能になり、2020年には急速に広まる加熱式タバコに対する対応が必要であること、また、禁煙治療の一部期間に情報通信機器を用いた診療による保険治療が認められたことから改訂されました。さらに、2020年11月に医師が「処方」する行動変容によるアプローチである禁煙治療アプリとCOチェッカーが保険適用となったことを受け、2021年4月に現在の標準手順書に改訂されました。新型コロナウイルス感染症拡大に世界が大きく揺れている時代にあっても、禁煙は最も確実にかつ短期的に大量の重篤な疾病や死亡を劇的に減らすことのできる方法であり、禁煙推進が喫煙者・非喫煙者を含め、社会全体の健康増進に寄与する最大のものであることに変わりはありません。国の緊急事態宣言などの非日常でめだちませんが、2020年4月の改正健康増進法の施行による喫煙場所の制限などのタバコ規制の推進をよい機会ととらえ、日常診療の場での禁煙治療が効果的に推進されるように、その基本ともいべき最新の「禁煙治療のための標準手順書」について改訂点を解説します。

2) COVID-19と禁煙

日本呼吸器学会

田坂 定智 先生（弘前大学呼吸器内科学）



2019年末に中国・武漢で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は依然猛威を振るっており、累計の死者数も500万人に迫っている。COVID-19の重症化因子については、これまで様々な検討が行われており、高齢や肥満、高血圧、糖尿病などが重症化に関わることが報告されている。中国でCOVID-19患者1,099名の臨床データを分析した研究では、喫煙者は人工呼吸器が装着される、あるいは死亡する危険性が非喫煙者の3倍以上になることが明らかになった。また年齢や基礎疾患など他の危険因子と比較しても、喫煙が重症化の最大のリスクであるとされる。喫煙とCOVID-19重症化との関連について詳細なメカニズムは不明だが、SARS-CoV-2の感染成立機序との関連が指摘されている。SARS-CoV-2はその表面にあるスパイク蛋白が細胞膜上のACE2に結合したのち、ウイルス外膜と細胞膜の融合を起こすことで感染する。この際に蛋白分解酵素であるTMPRSS2がスパイク蛋白を活性化してウイルス外膜を開裂し、気道細胞との膜融合を起こすと考えられている。喫煙者の気道ではACE2の発現亢進がみられるばかりでなく、TMPRSS2の発現も増えており、COVID-19の重症化との関連が示唆される。それよりも喫煙の際にマスクを外し、ウイルスが付着している可能性のある手で口元に触れることこそが感染のリスクになるのかも知れない。世界保健機関（WHO）はCOVID-19対策として「禁煙すること」を強く推奨する声明を出している。禁煙治療については、2020年度からスマホやネットを利用するオンライン診療が認められ、治療が受けやすい環境が整っている。コロナ禍の今だからこそ、禁煙の一層の推進が求められている。

3) COVID-19と口腔疾患

日本歯周病学会

稲垣 幸司 先生

(愛知学院大学短期大学部歯科衛生学科)



新型コロナウイルス（SARS-CoV2）は、アンジオテンシン変換酵素2（ACE2）受容体を持つ細胞に感染する。そのACE2受容体は、体内のあらゆる箇所に存在するが、消化器の入口となる口腔、特に、唾液腺、舌、口腔粘膜にも多くみられる。2001年ギネスブックにおいて認定された全世界で最も蔓延している病気である歯周病は、2016年歯科疾患実態調査によると、日本人のおよそ8割が罹患し、その歯周ポケットが、SARS-CoV2の貯蔵庫ともなり得ると報告されている。

現在、歯周炎における組織破壊の本態は、口腔内細菌叢の量的・質的構成異常（dysbiosis）の結果誘発される炎症反応で、歯周炎罹患組織では歯周ポケットが形成され、嫌気性細菌が増殖している。歯周ポケット内面の一部では上皮細胞の連続性が破壊されることにより潰瘍面が形成されて、易出血性になり、歯周組織だけでなく全身的に軽微であるが、慢性的な炎症状態を持続させ、様々な疾患の発症・進行リスクを高めると考えられている。その結果、糖尿病、妊娠合併症、心血管疾患、代謝性疾患、肥満、リウマチ、特定の癌、呼吸器疾患、アルツハイマー病を含む認知症等、50以上の全身疾患が歯周炎と独立して関連していることが判明している。しかも、そのような病態で、SARS-CoV2に感染すると、サイトカインストーム（免疫系の暴走、cytokine storm）の危険性が増加することも危惧される。

したがって、SARS-CoV2の感染リスクを低減させるために、かかりつけ歯科医院への定期的な通院に加えて、歯周病の発症、重症化予防を含めた日常の適切な口腔清掃の継続がより一層重要である。

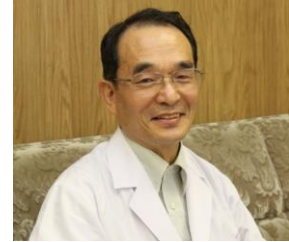
4) COVID-19を世界規模で考える

—何をもたらし、世界はどう変わるか?—

禁煙推進学術ネットワーク理事長

藤原 久義 先生

(兵庫県立尼崎総合医療センター)



<何をもたらしたか?>

新型コロナ（COVID-19）感染症が、2019年末、中国の武漢で発生以来、数か月で全世界に拡大、地球は一つであることを実感させた（2021年10月31日で、患者数は世界2.47億人・日本172万人、死亡者数500万人・日本1.8万人）、重症化因子は高齢（死亡者の90%以上）、男性等に加え、喫煙も重要である。

社会はニューノーマル社会へと一変した（マスク、移動の制限、テレワーク、WEB会議、テイクアウト・宅配、オンライン授業・診療等）。

一方、我が国のデジタル化の遅れと医療界での治験・新薬開発・緊急医療体制の不備・遅れを露呈した。

2021年7月、感染力の強いデルタ株により第5波が到来、8月末には感染者が2.5万人/日を越え、医療崩壊に直面したが、9月末から急激に減少した。この理由は高いワクチン接種率（10月31日2回接種73%、高齢者91%）とマスク使用率（90%以上）等が示唆されている。発症者数は増大したが、死亡率は低下（6月まで1.8%、7月—10月14日では0.4%、全体では1.1%）。治療薬もデキサメタゾン・抗体カクテル療法等が認可、経口薬も間もなく実用化され、正常化への道筋は見えてきた。当面の課題は①若年者のワクチン接種90%とブースター接種の普及、②現在の2類感染症相当を5類感染症相当に変更の上、第6波時の医療体制整備、③デジタル化の推進による経済対策である。

<どう変わるか?>

- ① 情報AI化・ソサイエティ5.0・ニューノーマルの促進：我が国はソサイエティ3.0(工業化)社会の優等生であったが、ソサイエティ4.0(情報化)社会に遅れ、ソサイエティ5.0(情報AI)社会の劣等生である。都会も地方のない社会、対面からオンライン社会&自由な働き方社会へ
- ② 新型コロナで加速した超少子化・超高齢化問題に挑戦：発想の転換：「子供を持つほどその家庭が経済的にも精神的にも豊かになる社会」、「高齢者も80歳まで現役社会」& 「生産年齢人口減少はAIでカバーする社会」
- ③ 医療の情報AI化：オンライン・AI診療の推進&臓器別専門医からER総合医の養成へ
禁煙も情報AI禁煙推進へ

楽しくアイスブレイク オリンピック・パラリンピック出場者のコメント



福岡大学 PayPayドーム45個分の広さ



福岡大学関連校卒業者のご紹介

- 兒玉芽生選手(人文学部教育・臨床心理学科4年生)

当日、ご登壇頂きます！！

陸上女子4×100m リレー

今年6月の日本選手権では女子100m、200m共に優勝。女子短距離界の新エース。

～以下、ご参考(当日のご登壇予定はございません)～

- ・藤野遼選手(2020年商学部卒業)

女子SL4(立位・下肢障がい)クラスのパラバドミントン
在学中には国際大会での優勝も経験。

- ・梅野隆太郎選手(2014年スポーツ科学部卒業)

野球(捕手)。阪神タイガース正捕手としてオールスターにも出場し大活躍中。

金・紫綬褒章

- ・金丸晃輔選手(2007年附属大濠高校卒業)

バスケットボール、現在、B. LEAGUE の島根スサノオマジック所属。

- ・上野由岐子選手(2001年九州女子高校[現:附属若葉高校]卒業)

ソフトボール(投手) 2008年北京五輪に続き今回も金メダルに貢献。

金・紫綬褒章

兒玉芽生選手

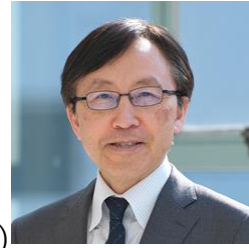
人文学部教育・臨床心理学科4年生



包括的心臓リハビリテーションと禁煙

日本心臓リハビリテーション学会

安 隆則 先生（獨協医科大学日光医療センター）



日本心臓リハビリテーション学会は、1995年に設立され、会員は、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・臨床検査技師・管理栄養士・臨床心理士・健康運動指導士・研究者など多職種からなり2021年7月現在、15,117名です。日本心臓リハビリテーション学会は、先進的心血管治療および予防介入としての心臓リハビリテーションをわが国において広範に普及させるとともに、その質の向上を図り、ひいては心血管疾患患者のQOLと長期予後を改善し、もって国民の健康福祉に寄与することをめざします。喫煙は、多くの慢性疾患、特に悪性腫瘍や慢性閉塞性肺疾患、全身の動脈硬化性疾患等の原因となっています。心臓リハビリテーションの適応疾患の中でも、喫煙習慣と関連するものは多く、心疾患予防のために禁煙指導が特に重要と認識し、当学会は、包括的心臓リハビリテーションとして積極的に禁煙を推進する活動を行っていくことをホームページ上で宣言しております*。禁煙によりこれらの疾患の発症率や死亡率が減少し、受動喫煙も同様のリスクとなることから、喫煙率を下げるのが医療費を削減する観点からも重要と考えています。心臓リハビリテーションに参加すると、禁煙率が高くなり、心肺機能維持・改善にも有効です。

*日本心臓リハビリテーション学会禁煙宣言

- ① 本学会の会員はすべてが非喫煙者であることを目指す。
- ② 本学会は、すべての医療施設において敷地内完全禁煙を達成するよう努力する。
- ③ 本学会は喫煙習慣が人体に及ぼす悪影響と禁煙によりそれが防止できることを社会に対して広く発信していく。
- ④ 医療系学部の学生に対する禁煙教育、禁煙支援をカリキュラムに組み入れることを働きかける。
- ⑤ 本学会は患者のみならずすべての人に喫煙の害と禁煙の効果を周知させ、喫煙者には禁煙指導と禁煙治療を受けるよう推奨する。
- ⑥ 他の禁煙推進関連団体とも連携し、禁煙推進活動に積極的に参加する。

第2部 新型タバコ論争、解決に向かって

1) 新型タバコの蔓延状況と危険性

禁煙推進学術ネットワーク

大和 浩 先生（産業医科大学）



令和元年の国民健康・栄養調査では、紙巻きタバコの喫煙者の割合は男性27.1%、女性7.6%、全体で16.7%にまで下がったが、加熱式タバコの利用者は男女とも30～40歳代を中心に増加している（図1）。

日本たばこ協会の資料でも、2021年度第1四半期の紙巻きタバコの販売数量は239億本、加熱式タバコは111億本であり、加熱式タバコの利用者が増加している。

加熱式タバコは高温タイプでも220～350℃に調整され、燃焼していないため紙巻きタバコよりも有害物質の発生量は抑えられている。しかし、粉末にしたタバコ葉を成形する際に添加されるグリセロール（独：グリセリン）など紙巻きタバコには含まれていない成分が大量に発生する。グリセロールは経口的には無害であるが、エアロゾル（霧・ミスト）として肺に吸引することの有害性は検証されておらず、今後、加熱式タバコを使用することの肺障害の発生が懸念される。

加熱式タバコの利用者が呼出するエアロゾルは日光や電灯の光では口元から30cmほどしか確認できないが、シート状に拡がるレーザー光線を照射すると約3m先まで呼気の勢いで拡散していることが確認できる。田淵らの調査では、加熱式タバコを近くで使用された場合、37%の人に気分不良などの症状が発生したことが報告されている。

加熱式タバコにも本人への健康影響、および、周囲の人への悪影響が発生する危険性があることを周知していかねばならない

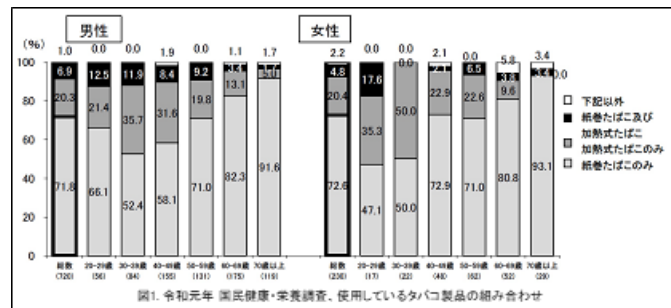


図1. 令和元年 国民健康・栄養調査、使用しているタバコ製品の組み合わせ

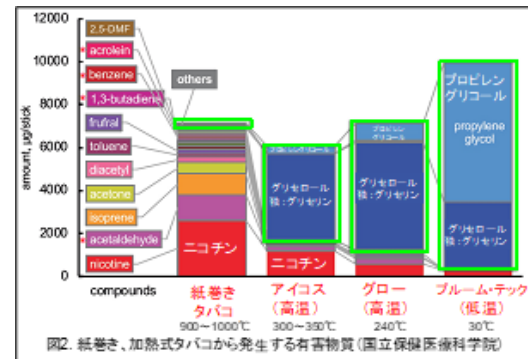


図2. 紙巻き、加熱式タバコから発生する有害物質 (国立保健医療科学院)

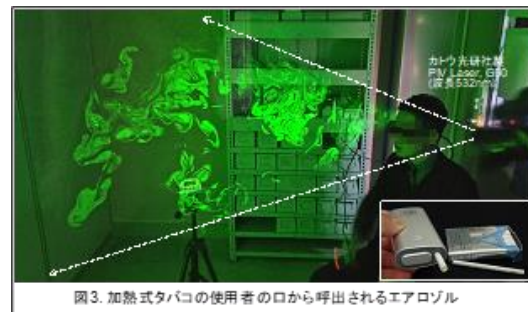


図3. 加熱式タバコの利用者の口から呼出されるエアロゾル

略歴：昭和61(1986)年、産業医科大学卒業、専門：喫煙・受動喫煙・三次喫煙対策
浪人時代に喫煙を始め、7回の禁煙に失敗し、8回目の禁煙を25年間継続中。

「ニコチン依存症」から「タバコ対策依存症」となり、日本の空気の改善をライフワークとして発信中。

⇒ <http://www.tobacco-control.jp/>

2) 喫煙・COVID-19：ネット調査の果たす役割

日本疫学会

片野田 耕太 先生（国立がん研究センター）



2020年、オリンピック・パラリンピックの年に始まった新型コロナウイルス感染症の流行（以下、コロナ）は、世界中の人々の生活を一変させてしまった。たばこについても例外ではなく、コロナとからむ複雑な事象が生じている。まず、コロナによる緊急事態宣言と改正健康増進法の施行時期が重なってしまい、受動喫煙防止法制化元年の話題がしぼんでしまった。室内空気環境への関心が高まった一方で、多くの飲食店は受動喫煙防止どころか廃業や閉店を余儀なくされている。ニコチンがコロナ感染予防に効果があるかのような言説も登場し、発表者とたばこ産業とのつながりが報道された。現時点では、喫煙によるコロナの重症化と死亡リスクの増加はほぼ確かで、感染リスクについてもむしろリスクを増加する生物学的機序が提唱されている。たばこ産業は、CSR（企業の社会的責任）の一環として各国政府のコロナ対策に資金援助を行う一方、日本では加熱式たばこの強力なキャンペーンを行っている。コロナによる喫煙所の閉鎖や家庭での喫煙の困難さは喫煙者に禁煙のチャンスとなりうるが、経済・家庭・就労環境の変化はストレス元でもあり、むしろ喫煙強度が増加する方向に影響することも報告されている。

ここに例示しただけでもたばことコロナとの関連は複雑多岐であり、国や地域の感染状況、行動制限、ワクチン接種状況など、コロナとたばこに関わる社会的、環境的、個人的要因は刻一刻と変化している。それらの要因を適時的かつ多面的にとらえるためには、対象者や調査項目を柔軟に変えられるインターネット調査が有用である。本発表では、私が参加させていただいているITC (International Tobacco Control Policy Evaluation Project) と JACSIS (The Japan COVID-19 and Society Internet Survey) の2つを紹介したい。

3) スポーツと喫煙

福岡大学スポーツ科学部

上原 吉就 先生

(福岡大学病院 循環器内科／

予防・抗加齢・再生医療センター)



喫煙は肺がんをはじめとして様々ながんや脳心血管疾患の発症リスクを増加する。また、長期間の喫煙歴をもつ者では、しばしば痩せ(るいそう)が認められることや禁煙をすることによって体重上昇が高頻度で認められることから、減量のために喫煙する若い女性も多く存在する。一方で、喫煙によりメタボリックシンドロームや2型糖尿病の発症率が、喫煙者では非喫煙者と比べて顕著に増加することが報告されている。

骨格筋に対して長期の喫煙は、慢性閉塞性肺疾患を発症し、肺や全身性炎症、身体活動量の低下から筋力や骨格筋量の低下を二次的に引き起こすと考えられている。そこで、私たちは肺傷害を生じることのないタバコ主流煙抽出液の腹腔内投与によるマウスモデルの作製に成功し、このモデルにおいて煙草煙成分による骨格筋への直接的な作用を明らかにしている。骨格筋量の調節では古くから筋合成の程度が注目されているが、近年骨格筋分解機構が解明され、骨格筋は常に合成と分解のバランスを保っていることが明らかとなってきた。この骨格筋分解因子である Muscle RING-Finger Protein-1 (MuRF1)、Muscle atrophy F-box protein-1 (Atrogin1) mRNA発現が、モデルマウスにおいて後肢筋群で有意に高値を示していることから、タバコ主流煙成分が直接的に骨格筋分解を促進していることが明らかとなった。

アスリートにとっては、喫煙によって上昇した一酸化炭素が血液中のヘモグロビンや骨格筋中のミオグロビンと結合して酸素との結合が妨げることから、酸素運搬能力の低下が認められ、持久性運動パフォーマンスの低下を引き起こすことが認知されているが、それだけでなく、喫煙は直接的に骨格筋への質的・量的な低下を引き起こす可能性も示唆され、運動パフォーマンスを低下させることが危惧されている。

第2回 生活習慣と未来医療カンファレンス

2021年11月27日(土) 16:30~

福岡市中央区天神1-1-1 アクロス福岡よりWEB配信

<16:30~16:50>

座長：鹿児島大学心臓血管・高血圧内科学 大石 充 先生

「ちょっと気になる禁煙の話」

演者： 地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
がん対策センター 疫学統計部

田淵 貴大 先生

会議後、お弁当をお配りいたします。

後援： 福岡大学医学部、NPO法人臨床応用科学

ちょっと気になる禁煙の話

田淵 貴大 先生

大阪国際がんセンター がん対策センター 疫学統計部



新型コロナ・新型タバコ時代となり、禁煙の何が変わったのか？

喫煙は新型コロナの明らかな重症化因子であり、新型タバコの流行がすべてのタバコ対策に悪影響を与えている。日本では電子タバコのニコチン入りリキッドが禁止されており、電子タバコは普及していない一方で、アイコスやプルーム・テックなどの加熱式タバコが流行している。2013年に日本で初めて加熱式タバコが発売されて以降、最新の研究結果では日本の成人の10%以上が加熱式タバコを使うようになっていくと分かった（Hori 2020; Odani 2021; Tabuchi 2021）。新型タバコの流行に伴い、禁煙支援の現場でも加熱式タバコ問題に注意を払う必要がある。本稿では、加熱式タバコに関するエビデンスを紹介し、禁煙支援の現場に役立つ情報を届けられればと思う。

略歴

現職：大阪国際がんセンターがん対策センター疫学統計部 部長補佐

医師・医学博士。専門は公衆衛生学・疫学。2001年3月岡山大学医学部医学科卒。血液内科臨床医を経て、2011年医学博士（大阪大学大学院：社会環境医学）取得後、2011年4月から大阪国際がんセンターに勤務。大阪大学や大阪市立大学等の招聘教員。タバコ問題に関する論文を多数出版。日本公衆衛生学会、日本癌学会など多くの学会で、タバコ対策専門委員会の委員長や委員を務める。2016年日本公衆衛生学会奨励賞受賞。2018年 後藤喜代子・ポールブルダリ科学賞を受賞。タバコ対策および健康格差の研究に主に従事。近著に「新型タバコの本当のリスク」、「2020年4月1日は受動喫煙からの解放記念日!?（永江一石・藤原唯人との共著）」「Science and Practice for Heated Tobacco Products」がある。

Facebookでもタバコ対策関連情報を発信しています！

(<https://www.facebook.com/takahiro.tabuchi.92>)

一般社団法人 禁煙推進学術ネットワーク

社員名簿

2021年10月22日現在

	社員名	担当
団体会員	一般社団法人日本口腔衛生学会	埴岡 隆
団体会員	公益社団法人日本口腔外科学会	長尾 徹
団体会員	一般社団法人日本公衆衛生学会	田淵 貴大
団体会員	一般社団法人日本呼吸器学会	田坂 定智
団体会員	公益社団法人日本産科婦人科学会	石谷 健
団体会員	一般社団法人 日本循環器学会	天野 哲也
団体会員	公益社団法人日本小児科学会	鈴木 修一
団体会員	一般社団法人日本心臓病学会	大石 充
団体会員	特定非営利活動法人日本肺癌学会	長谷川 誠紀
団体会員	特定非営利活動法人日本歯周病学会	稲垣 幸司
団体会員	公益社団法人日本麻酔科学会	飯田 宏樹
団体会員	公益社団法人日本人間ドック学会	武藤 繁貴
団体会員	公益社団法人日本口腔インプラント学会	塩田 真
団体会員	一般社団法人ジャパンオーラルヘルス学会	藤澤 幸三郎
団体会員	一般社団法人日本動脈硬化学会	飯田 真美
団体会員	公益社団法人日本産業衛生学会	諏訪園 靖
団体会員	一般社団法人日本内科学会	朔 啓二郎
団体会員	一般社団法人日本有病者歯科医療学会	内藤 克美
団体会員	特定非営利活動法人日本血管外科学会	川原田 修義
団体会員	一般社団法人日本口腔腫瘍学会	三浦 雅彦
団体会員	一般社団法人日本疫学会	片野田 耕太
団体会員	特定非営利活動法人日本高血圧学会	大石 充
団体会員	公益社団法人日本臨床腫瘍学会	福田 実
団体会員	一般社団法人日本健康心理学会	満石 寿
団体会員	一般社団法人日本結核・非結核性抗酸菌症学会	網島 優
団体会員	一般社団法人日本心血管インターベンション治療学会	道下 一朗
団体会員	一般社団法人日本総合健診医学会	高木 重人
団体会員	一般社団法人日本不整脈心電学会	川村 祐一郎
団体会員	特定非営利活動法人日本心臓リハビリテーション学会	石田 岳史
団体会員	一般社団法人日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	黒澤 一
団体会員	一般社団法人日本遠隔医療学会	長谷川 高志
団体会員	一般社団法人日本血栓止血学会	堀内 久徳
団体会員	一般社団法人日本ペインクリニック学会	飯田 宏樹
個人会員	-	藤原 久義
個人会員	-	大和 浩

寄付・後援・加盟団体一覧

開催するにあたり、下記の皆様よりご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

【寄付】

福岡大学医学部同窓会烏帽子会

【後援】

日本心臓リハビリテーション学会

禁煙推進学術ネットワーク加盟団体

